

Pride

～伝統を胸に 感動 感謝～

東広島市立高屋西小学校
第6学年

後期がスタートして約1ヵ月！！

後期が始まって1ヵ月が過ぎました。4月には、「6年生としてどんな姿になりたいのか?」「卒業するころにどんな自分になっていたか?」というような質問を子どもたちにしました。すると、子どもたちは、「他学年が、あんな6年生になりたいと思うような6年生になりたい。」「勉強も、生活も、丁寧にできる6年生になりたい。」「卒業するころには、6年間本当にやり切った達成感であふれる自分でいたい。」「卒業の日には、みんなで笑いあり、涙ありの感動するシーンを大切な友達と共有したい。」といった答えが教室中を飛び交いました。やる気にあふれる子どもたちの姿を見て、高屋西小学校を支えようとする力がものすごく高まっているなと感じました。

6年生の半分が過ぎた今、どんな成長を子どもたちが感じているのでしょうか?

日々の子どもの様子を見ていると「高屋西小学校をもっとよりよくするにはどうすればいいかな?」「6年生としての行動ってどんな行動なのかな?」「他の学年に注意する前に自分たちがちゃんとやってみようよ。」といった言葉が聞こえるようになりました。私たちは、子どもたちの言葉が大きく変わってきたなと感じています。6年生としての理想の姿を子どもたち1人1人が考え行動してきたからだと思います。

後期は、小学校6年間のまとめの時期であり、中学校に向けての準備期間です。子どもたちは高屋西小学校に何を残してくれるのか、中学校に向けてどんな準備をしていくのか。子どもたちのさらなる成長を楽しみにしています。

命についての学習をしました

道徳の時間に「お母さんへの手紙」を読み、命の尊さについて考えました。重い心臓病を患っていた佐江子さんが手術の前日にお母さんに渡した手紙。子どもたちは、その手紙を読んで、佐江子さんのお母さんへの感謝の気持ちや前向きな生き方、「命の輝き」を感じとっていました。また、佐江子さんが手術後、14歳で亡くなっていることから、「命には限りがある」ということを改めて考えるとともに、「どう生きるべきなのか」「命を大切にすることはどうすることなのか」などについて考えることができました。

